

28年11月25日

北名古屋市議会議長
沢田 哲 様

会派名 公明党
代表者 猶木 義郎



視察・研修報告書

政務活動費により視察・研修のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

参加議員名	猶木義郎 間宮文枝 齊藤文枝		
日程	28年10月25日から 10月27日まで 3日間		
月日	視察・研修先	視察・研修概要	
10・25	熊本市役所	被災地視察 復興支援の取り組みについての研修	
10・26	益城町、西原村方面 熊本市議訪問		
10・27	熊本市社会福祉協議会 LM熊本勉強会		

旅費合計	交通費	宿泊費	土産代	通信費	参加費
225,334円	126,590円	78,000円	5,744円	円	15,000円

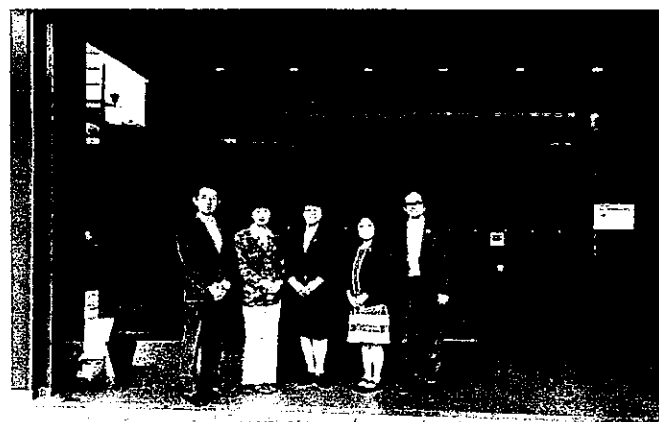
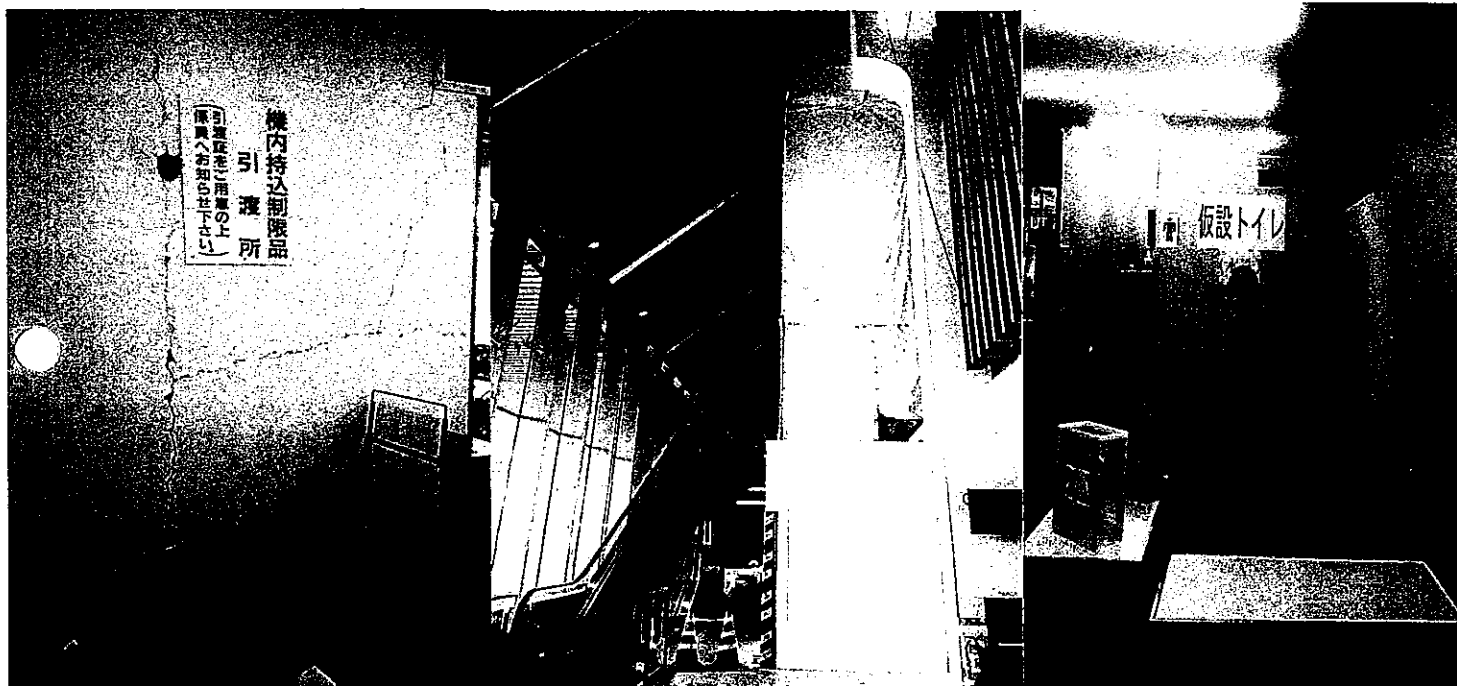
会派行政視察報告書

H28年10月25日(火)

『百聞は一見に如かず』

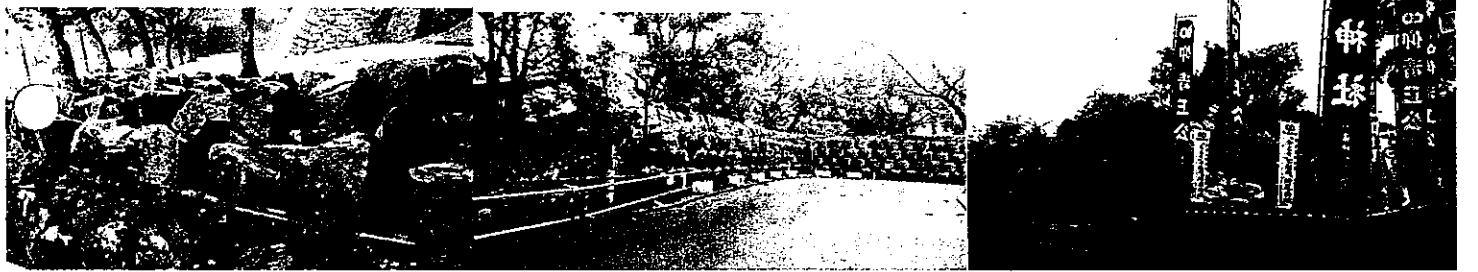
阿蘇熊本空港に降り立ち真っ先に目にしたのは、大きな柱にヒビが入り仮設トイレを使う被災した姿でした。今回、阿蘇熊本空港が被害が最も大きかった益城町にあると知った。

被災後半年経っているが、元通りに復旧するにはまだまだ時間もお金も要することを痛感した。しかし、熊本市街地は地震被害を感じないところもあった。複雑な心境です。



熊本市役所で熊本市における生活困窮者支援自立支援体制について学びました。

熊本市は政令市であり、北名古屋市の9倍の人口を有する熊本市の施策や組織体制をそのまま取り入れるのは困難ですが、わが市の施策が一步でも前進できるよう参考にしたい取り組みでした。



熊本市役所から徒歩 15 分ほどで熊本城に着きます。市役所は被害がなかったのですが、熊本城の被害の大きさが衝撃的でした。大雨の中、復旧作業に励む作業員の方々や立ち入り禁止区域に入らないよう監視するボランティアの皆さんの姿がありました。一日も早い復興を祈らずにはいませんでした。

H28 年 10 月 26 日（水） 被災の大きかった益城町、西原村を視察





益城町のテクノポリス仮設住宅のコミュニティーカフェに伺った。避難所運営から避難所・仮設住宅での生活、コミュニティー作りの大切さや困難、これからの夢を元町会議員から伺った。

西原村では、村長が迎えて下さりお話を伺うことができました。災害応援にはできる職員を派遣することがわが市に災害が起きた時被害を抑えることができる一番の防災対策となる。災害応援経験のある職員を先頭に経験で得た知識や知恵を存分に生かしていくことが大切とのこと。

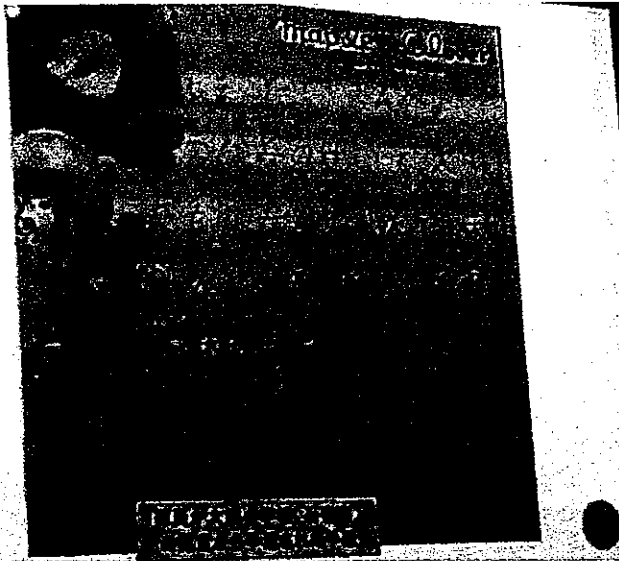
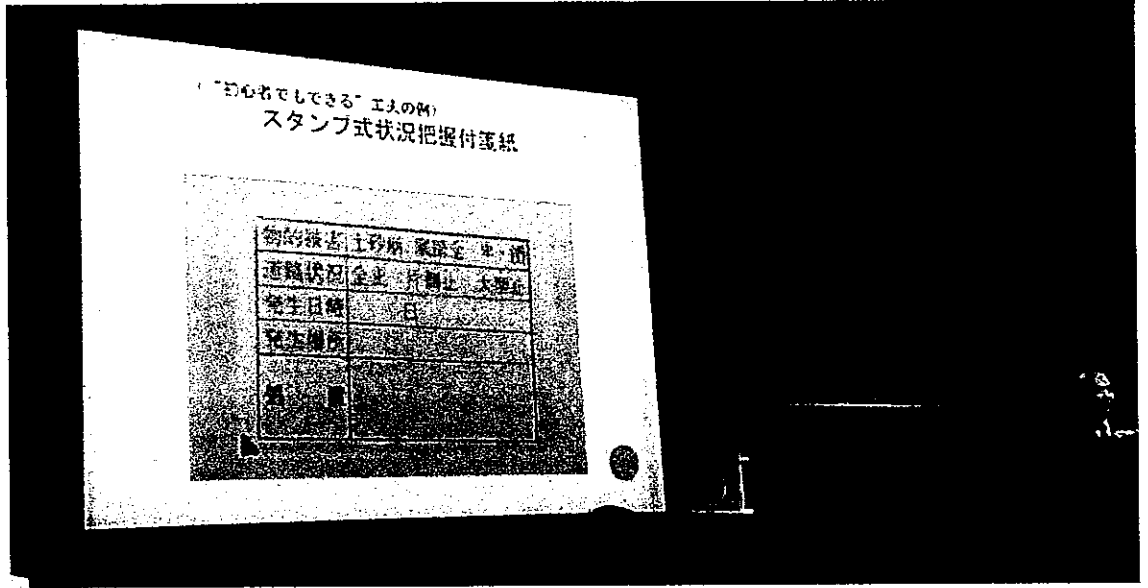
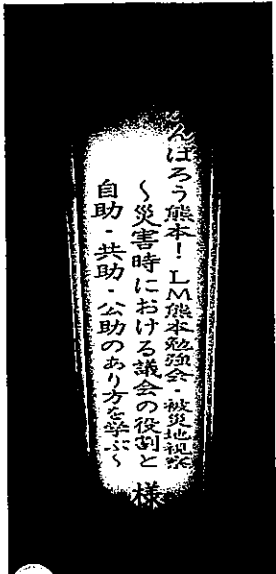
2.6mの地盤沈下があり、ひと部落が消滅してしまうとのこと。被害の大きさ、深刻さを体感しました。

熊本市議さまからは、地震発生後時系列で消防団の活動をまとめた報告を聞いた。

自分が被災した時は何ができるのだろうか、何をしなくてはいけないか身につまされるものがあった。

H28年10月27日（木） 熊本市社会福祉協議会訪問





☆年に1度市町村説明をやっているものの・・・ 「罹災証明」ってどう発行するの？
「建物被害認定調査」って？ 市町村にノウハウなし。
応援に他県などの職員が来てくれても、各県などでやり方が相違し、一時県が混乱した。
→ “災害発生後の行政事務” 訓練の必要性を痛感した。
☆支援物資は子供、女性、男性、高齢者など対象に合わせ必需品を一人分にまとめたを “セット・パック・リュック方式” にする。
☆住民目線での避難所位置の見直しと設置、そして自主運営を促す必要性。

事前訓練の成果も多かったが以上の問題点が明らかになったとのこと。わが市においてもショーのような災害訓練ではなく、もしも災害が起こっても訓練通りに行動し、被害を最小限に止められるものにしていかなければならないと緊急性を感じた。
また、議員として何ができるのかどう行動していけばいいのか考えさせられた講演であった。